

野球のまち阿南大会運営規則

1. 運 営

運営規則、大会運営に関する注意事項、競技取決め事項等の規定に触れる場合は、主催者の判断により出場停止・没収試合等の処置を行うこともある。

2. 用具・服装

- ① 監督、コーチ、選手は必ずユニフォームを着用することとし、チーム全員が統一されたものとする。
(スリ幅の広いストレートタイプのパンツは着用を禁止する。)
- ② 出場選手は、ユニフォームに背番号(0~99番、監督30番、コーチ29・28、主将10番)を付けること。
- ③ 打者、次打者、走者及びベースコーチは、両耳付きヘルメット(JSBB公認)を必ず着用すること。
- ④ 捕手はマスク、ヘルメット、プロテクター、レガース(JSBB公認)、ファウルカップを必ず着用すること。
- ⑤ 金属製スパイクの使用は禁止する。また、選手はネックレス等それに類する物を身につけないこと。
- ⑥ ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用、喫煙は禁止とする。
- ⑦ サングラスは大会本部の承認なしで使用可能。ただし、投手のミラーレンズは除く。

3. 引率責任者

各チームは必ず引率者(成人20歳以上、監督又は代表者が兼任可)をつけ、責任をもって行動すること。

4. 試合参加

- ① 第一試合のチームは試合開始予定時刻30分前までに、第二試合以降のチームは試合開始時刻1時間前までに必ず会場へ到着し、大会本部へとどけること。試合開始時刻になっても会場にこないチーム及び選手が9名揃っていないチームは、原則として棄権とみなす。
- ② 降雨その他の理由で、その日の試合を行うか否かは、出来るだけ早く大会実行委員会で決定し、当日試合のあるチームに電話連絡する。なお大会実行委員会への問合せ電話は下記のとおり。
大会実行委員会 運営委員長 大川康宏 090-1176-5557
- ③ 選手等の会場における負傷、疾病については、競技が直接の原因であっても応急薬品の塗布、貸与等の救急処置以外は主催者側では一切責任を負いません。チーム引率責任者等は負傷、疾病に十分留意してください。

5. 試 合

- ① ベンチは組合せ番号の若いチームを一塁側とし、ベンチに入るものの出来る人員は次のとおりとする。
(1)登録されユニホームを着用した監督(30番)、コーチ(29、28番)、主将10番及び選手20名(0~99番)以内。グラウンド内には、ユニフォーム着用の人以外は入らないこと。(試合前の練習時)
(2)代表者(責任者)1名、マネージャー1名、スコアラー1名、熱中症対策(2名)とする。
- ② 抗議の出来る者は、監督、当該プレーヤーのみとする。審判の判定に対して、保護者・応援団も含めて批判を行わないこと。
- ③ 参加申込締め切り後は、登録選手の変更ならびに追加及び背番号の変更は認めない。
- ④ 試合においては、ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。(2024競技者必携P61)
(1)ベンチに入っている監督やコーチ等が、審判員や相手チームのプレイヤーはもちろん、自チームの選手に対しても手をかけることを厳禁する。退場処分とする。
(2)審判員や相手チームに対する聞き苦しい野次は厳禁する。又、自チームの選手に対しても聴き苦しい言葉は使ってはならない。
- ⑤ 試合方法はトーナメント方式、ゲームはすべて6回戦とする。
- ⑥ 試合時間は90分以内とし、90分を超えて新しいイニングに入らない。均等回完了をもって試合を決する。試合時間は大会本部が管理する。なお、選手等の負傷手当のための遅延は試合時間に算入しない。(必携P45、P48)
- ⑦ 得点差によるコールドゲームは4回以降10点差とする。
- ⑧ 延長戦は行わず、6回を終了または規定時間を過ぎて勝敗が決定しない場合、タイブレーク方式(継続打順で前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、0アウト・二塁の状態にして行う。)の上、1回行い決着がつかない場合は抽選とする。なお決勝戦はタイブレーク方式で勝敗が決するまで続行する。
- ⑨ 準決勝戦のみ試合前のシートノックを行う。後攻チームより行い、時間は5分間とする。シートノック時は安全のため、ダートサークル内に入る選手はヘルメット(捕手はマスクを除く全ての装具)を着用すること。
- ⑩ 試合途中、降雨日没等で試合続行が不可能となった場合は、5回以降で得点差があるときは、正式にゲームにゲームが成立したものとし、同点もしくは5回を終了していないときは抽選とする。
- ⑪ 投手は変化球を投げてはいけない。
- ⑫ 健康維持を考慮し、4回終了後、5分間の休息をとる。(試合時間には含めない。)

- ⑬ 投手の投球回数制限について
(1)投手の投球イニング数については、健康維持を考慮し、一日6イニングまでとする。
(2)投球イニングに端数が生じた場合の取扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものと数える。
- ⑭ 指名打者ルールの適用について
(1)本大会においては、投手に代わって打つ打者(指名打者)を指名することができる。ただし、二刀流選手(先発投手を指名打者に指名すること。)は採用しない。
(必携P54 各大会共通 §3指名打者の取り扱いについて 5.11(a)(b)参照)
- ⑮ 守備側の監督は、故意四球を企図する時、その旨を球審に申告することができる(申告敬遠)。打者に投球しなくても、打者に対して四球を与えた事とし、打者は一塁へ進む。球審は、攻撃側監督にその旨を通告する。
- ⑯ 監督が投手のところに行く回数の制限(タイムは1分以内を限度とする。)
(1)監督が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、決勝戦のみタイブレークは1イニングに1回行くことができる。
(2)監督が、同一イニングに同一投手のもとに2度行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使う、捕手又は他の野手に指示を与えて直接投手のもとへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手は、他の守備位置につくことが出来る。
なお、他の守備位置についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。
- ⑰ 守備側のタイムの回数制限(タイムは1分以内を限度とする。)
捕手または内野手が、1試合に投手のもとに行ける回数は、3回以内とする。なお、決勝戦のみタイブレークは、1イニングに1回行くことができる。野手(捕手も含む)が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数に含まない。
- ⑱ 攻撃側のタイムの回数制限(タイムは1分以内を限度とする。)攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。なお、決勝戦のみタイブレークは、1イニングに1回行くことができる。
- ⑲ 攻守交代のときは、球をマウンドに投げずに、必ず投手板上か、その付近に置いてくること。
- ⑳ ファウルボールの球の処理については、一塁側に止まったものは、一塁側のチームが拾う。三塁側に止まったものは、三塁側のチームが拾う。捕手の後方のものは攻撃側のチームが拾う。
- ㉑ 試合のスピード化を図るため、内野手間の転送球を禁止する。
- ㉒ 投手が投球練習するときは、危険防止のため捕手は装具を全てを着用すること。(装具を着用していない場合は、立って捕球すること。)
- ㉓ 少年らしいプレイをし、ラフプレイを行わないこと。
(1)走者 … スライディング時必要以上に足を上げて滑り込まないこと。
(野手を蹴っ飛ばすかのようにベースの厚さよりも足を高く上げてスライディングをしない。)
(2)野手 … クロスプレイの時や送球された球の勢いで走者にタッチするのは良いが、タッチの必要の無い時(走者がベースの上の時)にカー杯タッチしたり、ランダウンプレー時の走者を押し倒すようなタッチをしないこと。
- ㉔ ベンチ内のメガホンは、1個に限り許可する。
- ㉕ 大会本部や相手チームへの挨拶は不要である。(応援団への挨拶は奨励)
- ㉖ 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、その程度を問わず臨時代走の処置を行う。
- ㉗ 投手に関する12秒ルール及び20秒ルールは適用しない。
- ㉘ 本規定に定めていない事項については、全日本軟式野球連盟(JSBB)に定める規定規則、取決め事項による。

6. 抽選で勝敗を決する場合

- ① 審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーが、投手からポジション順に終了挨拶の状態に整列する。
- ② 抽選用紙に○印、×印各9枚記入したものを封筒に入れる。
- ③ 球審が18枚の封筒を持ち、先攻チームより1枚ずつ交互に選ばせる。
- ④ 二人の審判員が両チームの監督立会いのもとに開封し、○印が多い方を抽選勝ちとする。